

国語科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時
学 級：第2学年〇組 〇名
場 所：2年〇組教室
授業者：〇〇 〇〇

- 1 単元名 「1年生におもちゃまつりで、うごくおもちゃのハンドブックをプレゼントしよう」
（「馬のおもちゃの作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」 光村図書）

2 単元の目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
(知識及び技能 (2) ア)
- ◎伝えたいことを相手に分かってもらえるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。
(思考力、判断力、表現力等 B 書くこと イ)
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
(思考力、判断力、表現力等 C 読むこと ウ)
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 児童の実態

児童は、読むことに関して、これまでに説明的な文章の学習として、2年生では「たんぼぼのちえ」「どうぶつ園のじゅうい」の学習をした。「たんぼぼのちえ」の学習では、時間的順序を表す言葉に着目しながら、叙述と挿絵を結び付けたり、たんぼぼの様子を動作化したりして読み取った。そして、すごいと思った植物について本や図鑑で調べ、みんなで考えた『はじめて知った』『ふしぎ』『かしこい』『かっこいい』『びっくり』の5つの視点から一つを選び、「しょくぶつのおちえずかん」を作って紹介した。交流時には、すごい視点がはっきりしない友達に「すごいの中身を教えて。」「どうしてすごいと思ったの。」と質問しながら、友達の考えを理解しようとする姿が見られた。質問に答えることで自分の考えがはっきりする児童もおり、交流のよさを振り返りに記していた。また、自分の考えと比べながら聞くことを指導することで、紹介する場面では5つの視点をもとに、「わたしも同じだと思う。」「今の紹介を聞いて、〇〇さんはびっくりって言ったけど、ぼくはふしぎだと思った。」などつぶやきながら聞き、さらに詳しく知りたいと質問をする様子も見られた。図鑑や本を読み、必要な語や文を抜き出す場面では、「これがちえだと思うけど、どこをどうやって書いたらいいかわからない。」「このあたりだとは思うけど・・・。」「この言葉が大切だと思うけど、どこまで書いたらいいの。」と重要な語や書きたいことを見つけることはできても、重要な文を選び出すことには課題が見られた。そのため、「どうぶつ園のじゅうい」では、紹介したい仕事について図鑑を作るために、本や図鑑の文章や写真、挿絵から重要な文を考えて選び出すことに重点を置いて取り組んだ。キャリア教育で、様々な職業について学習する6年生に紹介するという相手意識をもち、『くふう』『たいへん』『よろこび』の3つの視点から自分の選んだ仕事にぴったりの視点を選び、そのことが伝わるように仕事内容を2つに絞って図鑑にまとめた。仕事内容だけでなく、その仕事に関する情報が多く書かれている中から、どこまでを書くのかを迷う児童の姿も見られたが、これまで学習してきた中で、児童が相手にわかりやすく伝えるために気をつけている「文は短く」というポイントを大切にして、友達と共に学び合うことで、重要な文に絞って抜き出すことができた。しかし、まだ自分では見つけることができず、友達や教師の支援で、図鑑が完成した児童もいるため、引き続き指導をしていきたい。

書くことに関して、これまでに生活科と関連して、「かんさつ名人になろう」「こんなもの、見つけた

よ」で、それぞれ観察文、紹介文などの形式で書くことを学習してきた。しかし、わかりやすく説明する文章を書くことや順序に沿って書くことについてはまだ経験がないため、この単元で丁寧に指導したい。これまでの学習で、メモを使って文章を書くことを積み上げている。このことを生かして、考えた構成をもとに文章を書けるようにしたい。また、本単元でも、生活科での学習との関連を図りながら、相手意識・目的意識を明確にし、順序に沿って伝えたいことを相手にわかりやすく説明する文章を書く力が付くようにしたい。

(2) 教材について

本教材は、「読むこと」の領域の「馬のおもちゃの作り方」と「書くこと」の領域の「おもちゃの作り方をせつめいしよう」の2つの教材を関連付けて構成されている。

教材文は、〈前書き〉〈材料と道具〉〈作り方〉〈遊び方〉の四つの部分で構成されている。文章を構成するまともにも、〈作り方〉の手順も、わかりやすく説明するために順序を意識して書かれている。前書きでは、「身の回りがある」「空き箱」を使ったおもちゃを作ることができることや、「少しのしかけ」「うごきをする」おもちゃの作り方について記述があり、児童が生活科で学習する「うごくうごくわたしのおもちゃ」が想定できる。〈材料と道具〉では、材料と道具が列挙され、写真や図が配置されている。〈作り方〉は、5段落で構成され、部品を作り、それを使って順に作っていく手順が記述されている。作業を表す文と作業の表す意味が記述され、何のためにその作業をするのかが分かるようになっている。また、写真が6枚使われ、関連する本文の上部に置かれていることで、児童は本文と結び付けて読み進めることができる。〈楽しみ方〉には、動かし方が書かれ、本文だけで理解しにくいところは、写真に矢印を加えて視覚的にも捉えられるようになっている。まずは、「馬のおもちゃの作り方」で説明書の書き方や工夫を学び、さらに「おもちゃの作り方をせつめいしよう」にある「けん玉の作り方」で確認し、学びを生かして自分の説明書を作ることができる構成になっている。

(3) 指導について

学習指導要領第1学年及び、第2学年

[知識及び技能]

(2) 情報の扱い方に関する事項

ア 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

[思考力、判断力、表現力等]

B 書くこと (1)

イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

C 読むこと (1)

ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

以上の指導事項を重点的に指導する。

言語活動の設定

本単元の言語活動は、特に「B 書くこと」「(2) ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。」を具体化し、「説明する文章を書く」「説明する文章を書くために読む」ことである。

[知識及び技能]では、特に(2)アの情報の扱い方に関する事項を取り扱う。児童は時間の観点に基づいた事柄の順序の関係について学習し、時間を表す言葉について、他の単元でも着目する姿が見られる。同じ事柄の順序を取り扱うが、本単元では、作業手順の観点に基づいた順序の関係を指導する。

[思考力、判断力、表現力等]B書くことでは、(1)イに重点を置いて指導する。アの経験したこと想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることについて学習したことを生かして、ほとんどの児童が経験したことから伝えたいことを明確にして目的に合った文章を書くことできたが、構成を考えて文章を書くことには課題が見られる。そのた

め、本単元では、物を作ったり作業したりする手順について、順序に沿って簡単な構成を考えることに重点を置いて指導する。その中で、順序を考えることは、伝えたいことを相手に分かってもらうために必要であることに気付けるようにしていきたい。C読むことでは、ウに重点を置いて指導する。これまでの学習を通して、「ア 事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えること」は多くの児童が身に付けている。「ウ 重要な文を考えて選び出すこと」では、語を選び出すことはできても、どこをどのように選び出すかに課題があったが、重要な文に着目し活用する姿が見られるようになってきた。そのため、本単元では、これまでの学びを生かして、自分の説明書に使いたい表現や工夫を教材文から選び出し、説明書を作る言語活動を設定した。誰にでもわかりやすい説明書を書くために、重要な語や文を選び出し、活用できるように指導したい。

主体的に取り組むために

これまでの学習でも行ってきたが、教師のモデルを示すことで、「やってみたい。」「どうやったら、できるかな?」と意欲的にゴールに向かうためにどんな力が必要かを考え、誰もが明確になった課題を解決できるように、自分たちで学習計画を立ててきている。今回もゴールまでの見通しをもって、学習に取り組めるように児童自ら学習計画を立て、主体的に学習に取り組めるようにしたい。「書き方が分からない。」「どう書いたらいい?」とつまずきのある児童の姿も想定されるが、友達とやり取りをしたり、スモールステップで進めていけるように学習計画を立てたりすることで、説明書を仕上げられたという達成感が味わえるようにしたい。

読み直す習慣

書いた文章について、自分で正しくわかりやすく書いているか見直す習慣も付けさせたいと思い、指導している。これまでも、児童は学習計画を立てる中で、完成（清書）の前には、必ず読み直しの項目をあげており、計画の中に位置付けてきた。自分で見直した後、友達と確かめる活動をするすることで、学び合って書く力を高めていけるようにしている。また、字の間違いなどだけでなく、学習課題で決めた視点に合った文章が書けているかを確かめるようにしている。しかし、自分で読み直しても、なかなか間違いに気付けない児童が多い。本単元では、自分が実際に作ったおもちゃについて書くため、書きやすい反面、自分が分かっていることで、説明が十分でないところや表現が不明瞭であっても気付かないことが考えられる。友達と確かめる活動を十分に確保することで、読む人のことを考えてわかりやすい説明書が書けるようにしたい。

(4) 児童が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	①…発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す ②…分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する ③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

本単元で設定した言語活動は、「物を作ったり作業したりする手順の順序を考える」「自分の作ったおもちゃの作り方の説明書を書く」ことである。自分の作ったおもちゃの説明書を作るために、まず、教科書の「馬のおもちゃの作り方」の書き方を参考にしたいという思いをもたせる。そして、教材文がどのような順序で説明されているかを考えながら文章の構造を大まかに捉え、それをもとにおもちゃを作り、誰にでもわかりやすい説明書の書き方を考え、それを生かして自分の説明書を作らせたい。文章の中から必要な情報を見つけ、取り出し（A①）、整理したり（A②）、再構築したり（A③）していく。学習活動に必要な内容を児童と共に考え、児童の課題解決のために、共に学び合う時間を（B①②）を十分に確保し、自分の取り入れたい工夫を明らかにして表現（B③）できるようにしたい。

児童が目的意識をもつための手立てや工夫

児童が主体的に学習に取り組むために、教材にどのように出会わせるか、必然性をもたせたい。そのためには、いかに目的意識をもたせるかが重要であり、自ら課題を見つけられるようにしたい。

1・2年生の「おもちゃランド」を開くことを前提として、生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」を10月下旬には終わらせ、本単元に取り組む間に学年での交流を終え、いよいよ1年生との交流をするというタイミングで実施できるように計画している。本校では、毎年、生活科で「1・2年おもちゃまつり(ランド)」として、1年生の「たのしいあきいっぱい」での秋の木の実を使ったおもちゃ作りと2年生「うごくうごくわたしのおもちゃ」が終わった後、異学年交流を実施している。また、保幼小交流会も積極的に行い、2学期の交流会では、「廃材を使って一緒に作って遊ぼう」を実施している。異学年交流を通して、次年度に自分たちが行う学習活動を楽しみにしている姿が見られる。今年度は、自分達が2年生のお兄さんお姉さんとして迎える「1・2年おもちゃランド」において、「おもちゃの作り方ハンドブック」をプレゼントするという言語活動は、イメージしやすく意欲的に取り組むことができると考える。

実施前から教室には、関連図書を置き、参考にしておもちゃ作りの計画を立てられるようにしており、作るときにも本で調べたり、友達と試行錯誤しながら作る姿が見られた。本を見ながら作っても、うまくいかない経験もしており、「わかりやすい説明書があればすぐに作れるのに」という思いは誰もがもっている。そのため、1年生にもわかりやすい説明書にするための視点を共通理解することで、「読めば、誰でも作ることができる説明書」を作るという目的意識をもって取り組むことができると考える。そのために、教科書教材で書き方を学ぶという課題意識をもって、ゴールに向けて児童と共に学習計画を立てることで、見通しをもって最後まで学習に取り組めるようにしたい。

発見・蓄積のプロセス

説明書を作るという目的意識をもって、教材文の読み取りができるようにしたい。第二次では、自分の説明書に取り入れたい工夫を見つけるために、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えられるようにする。読み取ったことをもとに、馬のおもちゃを作る中で気付いた説明書を作るうえで大切だと思うことや、使ってみたい表現などに線を引いて着目しやすくする。第三次では、自分の作ったおもちゃの作り方の手順と取り入れたい工夫を色分けして付箋を用いることで視覚支援を行い、必要な情報を取り出し、構成しやすくする。

分析・整理のプロセス

交流する際には共通点や相違点に注目することで、自分の考えを確かにしたり、友達のよいところを見つけて取り入れたりできるようにする。第二次では、自分の見つけた説明書の工夫や表現を交流することで、工夫や表現の仕方を明確にし、「説明書名人」になるためのポイントをまとめる。「説明書名人」になるために、取り入れたい表現や工夫を明らかにしたいという目的をもって交流できるようにしたい。交流の際には、順序を表す言葉や絵などの工夫が手順の説明をわかりやすくすることを実感できるようにする。そのために自分で考える時間を確保し、自分の考えをもったうえでグループで共有させる。第三次では、付箋を用いることで容易に手順や工夫などを移動させることができ、構成を試行錯誤しやすくする。交流するときには、ワークシートを見せて場所を示しながら話すことで相手にわかりやすくなることを学習してきているので、これまで学んだ話合いの仕方を意識して進められるようにする。作り方について手順や工夫をまずは自分で考え、その後自分で分からなかったところや自信のないところを同じおもちゃを作った児童のグループで一緒に考えることで、互いに学び合い解決する場を設定する。

再構築のプロセス

学習過程の中で、単元のゴールである「1年生におもちゃの作り方ハンドブックをプレゼントする」を意識することで、「1年生に伝わるように」、「1年生にわかりやすい説明書」という視点をもつことが

できるようにする。

ペアやグループで交流しながら、自分の考えにアドバイスを書き加えたり、説明書の手順を操作したりする活動を取り入れる。「よりわかりやすい説明書になるように話し合う」等、話し合うことに必然性をもたせ、その後の一人学習の時間を確保することで再構築に向かえるようにする。

毎時間の学習の振り返りが小さな再構築の積み重ねであると捉え、めあてに関わって振り返りができるように指導している。振り返りの視点を示し、めあてに関わって振り返りができるようにすることで、本時の学びを確かめ合えるようにしたい。自分ができるようになったことやまだ不安に思っていること、分からないことなどをまとめて交流し、次の時間の学習へとつないでいく。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 説明書を書くために、事柄の順序など説明する文章の情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作ったおもちゃの説明書を書く中で、伝えたいことを相手に分かってもらうために、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 (B書くことイ) 説明する文章を書く参考にするために、教材文の中の重要な語や文等を考えて選び出している。 (C読むことウ) 	<ul style="list-style-type: none"> 説明書を作るために、見通しをもち、粘り強く取り組み、学んだことを生かしながらおもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

5 指導と評価の計画（全12時間）

※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
0		<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書の時間や空き時間を利用して、うごくおもちゃに関する本を読み、作りたいおもちゃを見つける。 ○生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」を実施しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月中旬には、司書や担任と相談して選んだ本を教室に置き、作り方を説明する文章に多く触れられるようにする。 ・作りたいおもちゃを見つけて、十分に材料を集められる時間を確保する。 ・計画書を立ててから、おもちゃ作りを実施する。 ・活動中に困ったことや工夫したことなどを振り返りシートに書きためておく。 ・活動の様子を撮影しておき、振り返ることができるようにしておく。 	

一	1	<p>○学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」の学習を振り返り、学習課題を話し合う。 <p>○単元の見通しをもち、学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師のモデルを示したり、生活科でのおもちゃ作りや1年生で行った生活科での「1・2年おもちゃまつり」での活動を想起したりして、学習に意欲的に取り組めるようにする。 生活科の始めに作った計画書で、伝わるのかを話し合い、1年生に読んでもらうことを想定し、説明書を作る際に気をつけたい視点を共通理解する。 	<p>□友達との関わりを通して、目的を達成するためにどのような課題があり、そのためにどのような学習が必要かを考えようとしている。(主体的に学習に取り組む態度①観察・ノート)</p>
	2	<p>○単元の見通しをもち、学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「うごくおもちゃのハンドブック」を作って、1年生にプレゼントすることをゴールとして、全児童がゴールまでの見通しがもてるように学習計画を立てる。 	<p>□友達との関わりを通して、ゴールまでの見通しをもち、計画を立てようとしている。(主体的に学習に取り組む態度②観察・ノート)</p>
二	3	<p>○教材文を読み、作っているときに大事だと思ったところや読み返したところなど、工夫を意識ながら、馬のおもちゃを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作っているときに、<u>教材文の書き方で、大事だと思ったところやわかりやすいと思ったところ、気をつけて読んだところなどを確認しながらグループで1つ作るようにする。</u> 	<p>□実際に自分が馬のおもちゃを作る中で、わかりやすい説明や表現などを意識しながら、おもちゃを作ろうとしている。(主体的に学習に取り組む態度③観察)</p>
	4	<p>○グループで馬のおもちゃを作り、馬のおもちゃを作るときに、気をつけたところや難しかったところを想起して、わかりやすい説明の仕方や説明の工夫を見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作るときに、<u>気をつけて読んだところや何度も読み返したところなどに線を引き、工夫を見つけられるようにする。</u> <u>絵や写真の必要性に気付けるように、文しかないもの、絵や写真と文が一致していないもの、絵や写真と文が一致しているものを準備する。</u> 生活科で使用した本でも、分かりやすかった説明の仕方や表現があれば、取り入れられるようにする。 	<p>□読み手にわかりやすい説明書にするために、自分の表現に生かす重要な語や文を考えて選んでいる。(思判表①Cウ教科書・観察)</p>
三	5	<p>○わかりやすい説明書にするために、「説明書名人」になるためのポイントをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の見つけた「<u>説明書</u>」の書き方の工夫を出し合い、<u>全文掲示の教材文に書き込むことで視覚的にも捉えて全児童が「説明書名人」のポイントを共有できるようにする。</u> 自分の「<u>説明書</u>」に使ってみたい工夫や表現を見つけられるようにする。 生活科のおもちゃ作りで、<u>参考にした本も読み返し、「説明書」作りに有効な工夫を取り入れられるようにする。</u> 	<p>□友達との関わりを通して、読み手にわかりやすい説明書にするために、自分の表現に生かす重要な語や文を考えて選んでいる。(思判表②Cウ観察・ワークシート)</p>

三	6	○みんなでまとめた書き方の工夫を確かめ、自分の選んだおもちゃについて、〈前書き〉〈材料と道具〉について書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科のおもちゃ作りで参考にした本や生活科のワークシートで確認しながら、<u>〈材料と道具〉</u>を書くようにする。 ・生活科の「<u>うごくうごくわたしのおもちゃ</u>」で<u>一緒におもちゃを作った児童同士でグループをつくり、交流することで〈材料と道具〉が適切かを互いに検討できるようにする。</u> 	□「説明書名人」になるためのポイントとモデル文の共通点や相違点を見つけ、自分の表現に取り入れようとしている。(知・技①(2)アカード)
	7	○みんなでまとめた書き方の工夫を確かめ、作り方の手順のメモを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の「<u>うごくうごくわたしのおもちゃ</u>」で参考にした本やワークシートも参考にし、<u>実際に作って自分が工夫したところなどもメモに書き加えるようにする。</u> ・作ったおもちゃを常に手元に置いて、確認しながら進められるようにする。 	□おもちゃを作る手順について、読み手にわかりやすく伝えるために、手順に沿って簡単な構成を考えている。(思判表③Bイワークシート)
	8 本時	○自分で考えた手順の説明を、よりわかりやすい説明書にするために作り方の手順を確認し、文章の構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の「<u>うごくうごくわたしのおもちゃ</u>」で<u>一緒におもちゃを作った児童同士でグループをつくり、交流することで新たな情報を得たり、文章の構成が適切かを互いに検討したりできるようにする。</u> ・交流した後、もう一度自分で考える時間を確保し、<u>話したことを書き加えるなど、自分の考えの再構築を図れるようにする。</u> 	□友達との関わりを通して、おもちゃを作る手順について、読み手にわかりやすく伝えるために、手順に沿って簡単な構成を考えている。(思判表④Bイワークシート・観察)
	9	○考えた構成をもとに、書き言葉で話すことを通して、〈作り方〉の説明文を書き、絵や図を描く。	<ul style="list-style-type: none"> ・再構築した構成をもとに、<u>みんなでまとめた「説明書名人」のポイントを意識して、自分が使いたい工夫を取り入れながら、〈作り方〉</u>を書けるようにする。 ・生活科のおもちゃ作りで使った本でも確認しながら、<u>絵や図が文章と一致した〈作り方〉</u>になるようにする。 	□おもちゃを作る手順について、読み手にわかりやすく伝えるために、文と絵や図を組み合わせ、わかりやすい説明の順序を組み立てている。(思判表⑤Bイカード)
	10	○みんなで考えた書き方の工夫を確かめて、〈遊び方〉を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・本の紹介文や「<u>こんなもの、見つけたよ</u>」でお家の人に知らせた文の中でも取り入れた、相手に呼びかけたり、誘ったりする表現の仕方に気をつけて、<u>〈遊び方〉</u>が書けるようにする。 	□「説明書名人」になるためのポイントと教材文の共通点や相違点を見つけ、自分の表現に取り入れようとしている。(知・技②(2)アカード)

三	11	○みんなで確認した「説明書」を作るときに気をつける視点に基づいて、読み直しをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の始めに共通理解し、意識してきた視点に気をつけて「説明書」が書けているかを自分で確認しながら読み直し、その後、ちがうおもちゃを作った友達とも読み合い、よりよい「説明書」になるようにする。 ・友達の「説明書」を読んだ後には、これまでの学習でも行ってきたように、アドバイスだけでなく、いいところを見つけて、感想を伝えるようにする。 ・交流後、もう一度自分の「説明書」に戻って、修正することがあれば書き加えたり、書き直したりする。 	□目的を達成するために、文章を読み直して間違いを正したり、自分や友達の文章表現のよいところに気づいたりしながら、よりよい説明書にしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度④観察・カード)
	12	○学習のまとめをし、単元での学びを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要があれば、部分的に清書をする。 ・生活科の「1・2年おもちゃランド」の最後に1年生にみんなで作った「おもちゃのハンドブック」をプレゼントするときに、伝えたいことや伝え方などを確認する。 ・これまでの学習を振り返り、自分の学びを自分の言葉でまとめられるようにする。 	□単元全体を通しての学習を振り返り、自分の言葉で表現しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度⑤観察・振り返りシート)

6 本時の目標 (本時：8/12時間目)

1年生にわかりやすい説明書にするために、書き方の工夫を考えながら、作り方の手順の簡単な構成を考えることができる。(思判表Bイ)

7 本時の評価規準

おもちゃを作る手順について、読み手にわかりやすく伝えるために、手順に沿って簡単な構成を考えている。(思判表Bイ)

8 本時の展開 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

主な学習活動等	指導上の留意点 (・) 評価規準 (□)
1. 課題を再確認し、めあてをもつ。(5分) <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、単元のゴールに向けて、何をするのかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と交流することで、自分で考えた〈作り方〉の説明の構成や書き方をさらにわかりやすい説明にしたいという、学び合いの目的をはっきりさせる。 ・本時のゴールのイメージを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">友だちと話し合っ、作る手じゅんのせつめいをはっきりさせよう</div>	
2. 見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の流れを確認する。 ・話し合いの仕方を確認する。 3. ペア(グループ)で共に学び合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって、本時の学習に取り組めるようにする。 ・みんなでまとめた「説明書名人」のポイントやみんなで気をつけたい説明書作りの視点を確認する。 ・交流がうまくいかないときには、途中で一旦止めて、

<ul style="list-style-type: none"> ・同じおもちゃを作った友達同士のグループで話し合う。 ・<u>前時で考えたワークシートを基に話し合い、話し合っ</u><u>て付箋を入れ替えたり、付け足したりする。</u> ・教材文〈作り方〉の全文シートで振り返り、話し合うことを視覚的に共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ○手順の確認 ○作るために必要なことは書かれているか <p>4. 自分で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことを生かして、自分のワークシートの整理をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・付け足す ・直す ・工夫を加える <p>5. 学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度自分で読んで確認する。 <p>6. 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、自分の言葉でまとめる。 ・次時の見通しをもつ。 	<p>うまく交流できているグループを紹介したり、進め方について再確認したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のワークシートを見せたり、話しているところを示したりすることで、話し手の考えや思いが聞き手に伝わりやすいことを、これまでの学習で理解しているが全員ができるわけではないので、意識できるようにする。 ・交流しながら、付け足しをすることが難しい児童もいるため、ここで付け足しができなくても、次の「自分で考える」ところで、できればよいことにする。 ・<u>交流して、順番を変えたり、付け加えたりしたことを自分の〈作り方〉の説明に取り入れ、構成を完成させる。</u> <p>□おもちゃを作る手順について、読み手にわかりやすく伝えるために、手順に沿って簡単な構成を考えている。(思判表Bイ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>1年生にわかりやすい説明になっているかを、自分で読んで確認し、説明書を書く意欲を高められるようにする。</u> ・振り返りの視点を示さなくても、めあてに対応した振り返りが書けることを目標としているが、まだ、そこまでに至っていない児童もいるため、<u>めあてを再確認し、振り返りをする視点を明確にする。</u>
---	---

9 授業参観の視点

- (1) 学び合いで、友達の考えや思いを感じ取り、自分の考えを伝えることができているか。
- (2) 〈作り方〉の部分をより詳しい説明にするために、作り方の手順を確認し、説明書作りの工夫や表現を取り入れて簡単な構成を考えられているか。